

平成28年度 第3回釧路市まちづくり基本構想策定市民委員会  
議事要旨

- 1 日 時 平成29年2月10日（金）  
午後3時00分～午後4時40分
- 2 場 所 釧路市役所 本庁舎2階 第3委員会室
- 3 出席者
  - (1) 委 員：浅野委員、五十嵐委員、伊藤委員、井上委員、大野委員、金子委員、川前委員、川村委員、小磯委員、夏堀委員、西村委員、長谷川委員、畑委員、原田委員、檜森委員、松尾委員（五十音順）
  - (2) 釧路市：蝦名市長、名塚副市長、岡本総合政策部長、菅野都市経営課長、太田基本構想主幹、平間主査、沼尻主任

4 内 容

- (1) 開会
- (2) 会議成立確認
- (3) 市長挨拶
- (4) 委員長挨拶
- (5) 議事
  - ①釧路市まちづくり基本構想 たたき台について
    - ・資料1、2に基づき、事務局より説明。
    - ・意見、質問等なく確認された。
  - ②釧路市まちづくり基本構想 目指すべきまちづくりについて
    - ・資料2に基づいて事務局より説明。
    - 意見交換
    - (○は委員の発言、◎は委員長の発言、●は事務局の発言、以下同じ)

○都市空間利用の基本方向で、水産に関する部分の記載が見えない。やはり釧路市は水産都市くしろであり、今後の方向性に関する議論はどうなるのか。

●この部分は、総合計画では土地の利用方向として、都市計画区域の土地の利用方法をベースに記載していた。今回、市が独自にまちづくり基本構想を策定するにあたり、今までの土地の利用方針の上に市民生活や都市の機能を記載している。水産の振興などについては今後作成する分野別施策等に主に記載されると考えている。

◎土地利用という、どのような土地をどう利用していくかについて、基本的な方向を整備する場所であるという事務局からの説明がなされた。したがって、水産業は基本的に水面なので、都市的地域の港湾地域の空間で活動される産業活動という意味合いなので、都市空間利用の中では一つの柱になりにくいということが、今の事務局の説明だが、良い工夫や表現があれば検討願いたい。

○空間には、広い空間と狭い空間とあるかもしれないが、例えば、千代ノ浦についても空間的な部分がある。それが農業地域、森林地域、自然地域とある中に水産という言葉が入らなくていいのと感じた。

◎従来、土地利用基本計画という計画があり、その中の柱がこのような柱となっていたため、それを新しいまちづくり基本構想に反映した結果だと思う。大事な意見なので釧路らしさをいかに盛り込むかについて事務局として検討願いたい。

●委員の意見を受けて、都市的地域の港湾の区域の表記など、今後検討していきたい。

○釧路は港町なので、それが一目見てわかるような地域分けがあることも、非常に大事なことだと意見を聞いて感じた。

◎都市的地域に色々な機能が盛り込まれており、記述が弱いので、水産や港湾など都市空間が産業的に利用もされているという具体的な記述を心がけたらどうか。

### ③釧路市まちづくり基本構想 まちづくり基本方針について

・資料2・3に基づいて事務局より説明。

意見交換

◎基本構想の庁内作業部会の議論、検討を踏まえて基本方針の5つの柱、内容についてたたき台としての提案である。最初の議論なので、柱の妥当性、内容として必要な施策、あるいは記載されている内容の問題など、幅広い視点で意見を頂きたい。

○基本方針4の町内会に関する記載について、町内会の関わりがあって、社会の中で相互に繋がっていることを意識できる環境づくりが求められていることについては理解する。しかし、他の部分では「推進を図ります」「目指します」と文章が続いていくが、ここだけは「求められています」で止まっている。その後「こういった事業の推進を図ります」などの文章が入るべきではないか。人と人とのつながりを強化できるような方策がなければ、すべての市民が健康で安全に安心して暮らせるまちづくりは実現できないと思うので、指摘させていただきたい。

○基本方針1 未来を担う子どもを育てるまちづくりについてだが、資料3で提出されている論点は時代に合うものが多いと感じた。一方で同世代の時代背景に目を向けると、特別支援という言葉もなく、学力向上や教育機会の均等の確保、高校進学とか高等教育の進学に関しても社会情勢や環境に大きな違いがある。そうすると、大人が子育てあるいは教育に携わるための学ぶ機会を充実することを基本方針に盛り込んだ方が、より充実するのではないかと感じる。そのことが基本方針2から5まで人を育てることに関わってきて、子どもを育てるまちづくりは、実は私たち大人が学び続けていくまちづくりではないのかということ意見を頂きたい。

○今回は、基本方針なので各論は別に示されると思っている。

1回目、2回目の委員会から、私も言い続けていることだが、子どもたちが地元釧路を理解し、釧路が大好きになって、大人になっても釧路のために頑張ろうと思う社会にしていくことが、地域が良くなるための、時間はかかるが一番の最短距離なのではないかという意見が色々な方から出ていたかと思う。それが全体にまぶされていると感じるので、どこかで、強くまとめた方がよいのではないかと。

基本方針1 未来を担う子どもを育てるまちづくりは、子どもたちについて述べており、大人になりたての社会人が釧路で活躍して学ぶ、

働くというのが、次の雇用の基本方針3につながると思うが、その橋渡しの文章が入るといいと思う。最後の3行の中にある地域の理解を深める子どもの教育の中で、そのような部分が重点的に必要だという記載の文章があるとよいと感じた。

産業の部分については、各論が分野別施策で示されると思っているが、もう少し具体的な記載、港湾や、広域のネットワークの取り組み、道路網と港湾の連携を密にするなど、具体的な事例を盛り込みつつ各論につなげて頂きたいと感じた。

- 従来は基本方針を分野別でカテゴリー分けをしてきたが、今回は分野横断的になっていると説明がなされた点については、厚労省や福祉行政の流れと共通していると感じた。国でも障がい分野や福祉に関しても課題分野別よりは地域共生社会ということで縦割りを横つなぎにしていく方針の中から、全ての施策が出てきていることと、流れは一体的な考え方だと思う。その中でも「わがごと」「まるごと」、包み込むことを「まるごと」と表現していて、「わがごと」というのは自分たちのまちは自分たちでよくする、自分たちが活動にも参加するという基本的な考え方から、基本方針の中でも、随所に地域住民、市民がどうするのかに関する記載が出てきていると思っている。

地域づくりでは、自然発生的に自分たちで何かやっていきたいことが生まれてくるかといえば、そうではなく、社会福祉協議会であるとか、地域の各々が得意分野に介入しながら、地域と共につくりあげていく過程が必要だと考えている。そのような意味で「地域のこと」「住民のこと」と考え方を示す部分と、地域を一緒に盛り上げていくコーディネーター役が、細目に釧路の中で出てくると良いと思う。今も地域包括支援センターであれば生活支援コーディネーター、生活困窮者支援の場面でもコーディネーターがいるなど、コーディネーターという職種が、非常に増えてきていて社協についても社会福祉活動のコーディネーターということになる。これからは、コーディネーター職の連携も必要になると思う。目指すべきまちづくりにも書いてあると思うが、地域をつくるというところで、つくる方法についても基本方針の中で表現できると良いのではないかな。

基本方針5のコンパクトなまちづくりに関連して、地域包括支援センターが出来て十数年が経過したが、住民の自治組織などについては独自の取組が進んでおり、市内では様々な関連団体の地区割りが入り組んでいる現状にある。例えば、小学校区で仕事をする際に、4つく

らの連合町内会の方が参加している。今の時代では担っている方が重なってくるので、様々な地域福祉活動を展開していく中で、日常生活圏域という大きいベースで地域づくりを考えるのであれば、その圏域に沿った関係団体の整理を図ることも考えられる。大きな課題なので、大きなまちづくりの指針である基本構想で方向性がつけられないかと感じた。

- 基本方針3 地域の経済と産業が雇用を支えるまちづくりについてだが、港湾だとか、道東の中心都市としての色々な機能が産業にどのように結びつくのかについて盛り込まれてもいいと思う。道東の中心なので、産業にとっては、周辺市町村との結びつきも重要になるので、その点についても記載があるといい。

雇用に関する現状では、地域にニーズはあるが需要を満たしていないこともある。ここに住む方がこの地域に就職できるということに加えて、こちら出身で本州方面に出た方が戻りやすいこと、あるいはIターンを含めて、このまちに来やすい方向を目指すところを記載すると、人材の確保が進みやすいのではないか。

- 基本方針1、2、3に関してだが、基本方針1の子どもを育てるところで豊かな心を育てるために健康づくり、スポーツ・レクリエーション、芸術・文化に取り組むのはわかるが、その後に、どのような子どもになって欲しいと考えて記載しているのか説明願いたい。地元に残って欲しい子を育てたいのか、それとも一度外に出て帰ってきて欲しい人材を育てたいのか。未来を担う子どもを育てることは、このまちに関わって、一緒につくってくれる子を育てたいということかと思うが、どのような意図で記載されたのか。

- 両面を意識して記載している。前回、前々回の市民委員会で教育環境、高等教育に関して、現状地域で学べない部分があるので、前回の市民委員会でも発言があったが、一度外に出ることで視点を広げ、地域の豊かさを感じることも必要だと考えている。加えて、外に出ていった子どもが帰って来られる環境も必要だという意見もあったことから、当然釧路地域で子どもが育って働いていくという点と両面から記載している。

- 基本方針3だが、説明のあった両方の側面の人材を小さいころから

育てるということは、この基本方針3の経済を支える人材を輩出するという理解でいいかと思うが、その時に芸術・文化を学ぶことがどのようにつながっていくのか。意見としては時代に沿ったICTやテクノロジーなども入れた方が良くのではないかという趣旨である。記載されていることは、昔から言われている内容だが、留学体験、情報やテクノロジーなど未来型のワードを入れていくことが、基本方針2、3につながっていくと考える。基本方針2の釧路地域の産業を使ってすべての人が活躍できるまちづくり、そのような10年後のまちづくりにつなげていくと基本方針1、2、3はつながっていくと考える。

○子育て中の立場として、そして、普通の市民の意見として聞いていただきたい。このように文章で書いているが、普通の人にはわかりにくい。読み解いていくことでわかるが、その暇がない母親たちが多いたと思った。例えば、子どもを育てることについても、「このような感じでサポートしています」というのがわかるイラストや具体例があるなど、目で見えてわかると良いというのが、率直な意見。実際、市民は市がやっていることを知らないことが多いと思う。

◎今の意見は、このまちづくり基本構想ができたときに幅広く市民の方にわかりやすく発信していくために様々な工夫が必要ではないかという、今後に関する大切な提案である。

○基本方針の1から5を通してだが、基本方針1から5をどのようにして市民に情報発信していくかについて具体的に示したほうがいいのではないか。情報をどのように取得するかは人によるが、最も多くの人に伝わる情報発信の仕方を考え、その方法で発信することを記載した方がPR力は強くなる。

基本方針3地域の経済と産業が雇用を支えるまちづくりに関してだが、8行目の「新産業の創出、新たな価値を生む技術革新や創業を促進し、持続的な発展を目指していきます。」については30代や40代の興味が高い部分である。今までの産業ではない新しい産業を創出することに関しては興味が高いので、もう少し説明する文章があった方がいいと感じる。

○基本方針3地域の経済と産業が雇用を支えるまちづくりで、先ほどわかりにくい部分があるとの意見があったが、同じ意見であり、これ

も大事、あれも大事だという方向で書かれており、結局何をやるのかについて弱い気がする。ここは各論ではないので、このような記載になるのは仕方ないと思うが、今の経済と産業で活気のあるものについて記載があるなど、重点的な部分分かる一文があるといい。

雇用の創出についても、高齢化なのか新しくやる人がいないのかなど、本質的な課題に関して記載があると伝わりやすいと感じる。文言として、既存の産業について記載されているが、ITなど将来的な分野の言葉など、これから必要になる技術も取り入れていくという文章が記されるべきである。

さらに雇用については、これまでは会社があり、社長がいて、経営陣がいて、雇用者を増やすという考えが一番強いと思うが、小さい事業体で発生している問題は経営する人がいないことや、色々な技術や産業があるなか、経営を引っ張っていくリーダーが足りないこともある。なぜ、経営者やリーダー役を作らないといけないかについての問題意識も記載すべきだ。そして、リーダーが増えていく状況の中では、投資も必要だと感じている。資金面のリスクを取る人と事業のリスクを取る人が、役割を分担していく面も必要だと思っている。地域の会社の多くが、社長が経営者として金銭的なリスクも負っているのが現状だと思う。新産業とか新しいリーダーを呼び込もうと考えると、役割を分担する場面も必要であり、投資を後押しすることや、投資する人がこの地域で案件を探そうと思えることも重要だ。

○私からは、基本方針の何番ということではなく、全体的にお話しさせていただく。先ほど、分野横断的に基本方針を作成したと説明があったが、子どもがいる世帯、高齢者世帯等に関わると色々なケースがあると思う。それらの問題に複合的に分野横断的に取り組むということが、基本方針全体を通したときに、より感じられたらいいのではないか。

それぞれの基本方針を読んでいくと子育てに関してであったり、産業であったり、色々な分野で課題、取組が重なる部分があるので、みんなが一丸で取り組むということが伝えられたら、より良いと考えている。

○基本方針1 未来を担う子どもを育てるまちづくりだが、はたして、スポーツやレクリエーションに親しむと健やかな体が育まれ、芸術や文化に親しむことで豊かな心が育てられるのかと疑問を感じる。私は、

人間は人に大事にされた経験であるとか、人が人を大切にする気持ちによって心豊かな人間に成長していくと考えているので、具体的にこのような取り組みで、豊かな人間が形成されるわけではないと思う。そのような思いもあって、人がきちんと人のことを大切に考えることが大事ということが盛り込まれているとうれしい。この地域の歴史、成り立ち、先人の知恵など、このまちを知ることを踏まえた上で、子どもたちがこのまちを大事に感じるようになると思うので、それらを学ばせることがあってもいいと思う。また、学力の向上についてだが、非常に大変だという話を聞くので、基本方針で触れなくていいのかと感じた。

基本方針2すべてのひとが活躍できるまちづくりについては、前回の市民委員会の発言を受けて「元気な高齢者」という文言が出てくるが、活字になったときに元気ではない高齢者はいきがいをもって活躍できなくてもいいのかと感じてしまった。どのような書き方が良かったのかと考えてしまう。体は元気ではなくても、やる気はあるという人は沢山いるのでいい表現があれば検討してほしい。

○「元気な」を削除すればいいのではないか。

○すべての高齢者とか、元気とか元気ではないということに拘らなくてもいい気もする。

基本方針4誰もが安全に安心して暮らせるまちづくりの中では、町内会など顔の見える関係が非常に大事だと思うが、その中で、自主防災組織には触れなくてもよいのか。共助の部分であるとか、公助の部分もあると思うが、自分達でやらなければならない部分もある。

基本方針5自然と都市とが調和した持続可能なまちづくりについては、盛り込まれすぎていて、何が焦点なのかが分からない。持続可能なまちづくりを目指すのであれば、社会資本の老朽化対策よりは長寿命化対策になると思う。何をもって持続可能なまちづくり目指しているのか、若干わかりづらい。

最後に全体を通してだが、誰に向かって書いているのかが気になった。これを市民に分かって欲しいと書いているとすると「目指します」「進めます」ということについて、「市役所の職員大変だね」で終わってしまう。そうではなくて市民の役割は何なのか、市民に何をして欲しいのかが、記載されていると良いのではないか。せつかくのまちづくりの会議なので、市民の果たす役割も、盛り込まれてもいいのでは



ないか。

- 基本方針の下に各論が作成されるので、水産についても詳細な部分については、将来的に各論で記載されると思っている。この基本方針の中で、交通網の例示を陸海空の交通ネットワークで一括りにするのはどうなのかと感じた。せつかく、高速道路、バルク港湾整備という看板があるので、具体的に述べてもいいと感じた。

釧路の人口減少を防ぐには、産業の役割が非常に大きいと思う。色々な会議で発言しているが、釧路には意外と工場がない。せつかく港が整備されても、移出されるものは沢山あるが、移入するものがない現況である。そういった移入移出のバランスを視野に入れながら進めなければならないと思う。この点について、市役所が音頭をとっても、企業は採算性がなければならないし、各業界が乗ってこないことがあるなど、非常に難しいと思っているが、何か表現できれば良いと思う。

それと最後に、先ほど指摘がなされた基本方針4の「求められています」の部分であるが、「求められている」から「このように取り組みます」という記載がこの部分だけがないので検討願いたい。

- 基本方針1 未来を担う子どもを育てるまちづくりに関しては、どのように育てるのかと、どのように育ってもらいたいか、1段落目、2段落目、3段落目で一緒に記載されている印象を受ける。育てる環境の話をしているけれども、豊かな心を育てますと書いてあるなど、分かりづらいイメージを受けた。

基本方針3 地域の経済と産業が雇用を支えるまちづくりだが、4行目に第1次産業と第2次産業と記載されているが、現在、地域経済の大部分を占めているのは第3次産業だと思うので、ここに関しては生産都市に縛られすぎている気がする。また、釧路の物流面では港湾などが釧路にとって大きな部分を支えていることを考えると、生産都市に焦点を当てると第1次産業、第2次産業と表記されてしまうので、そこに捉われず第3次産業の大きな部分も記載すると、この産業の部分も見えてくる。

感じたこととして、先程も意見があったが、まちづくりは人づくりではないかと思っているが、市が教育に対してどのように考えているのかが一切見えてこない。それは、高等教育になると市の管轄から離れるので、視点が持てないのだろうが、そこで管轄ではないからでは

なく、そこを意識したうえで、幼少期教育はどうあるべきかを考える必要があると思う。例えば、まちづくり基本方針1の最後の4行に市としてどのような方向性で教育していくべきなのかのビジョンが見えてくるといいと思う。

釧路は産業も市民も多様であり、その中から色々な意見を聞いて、1つずつ組み立てていくところなるという予想通りの結果に終わっている。基本方針5つを挙げているが、これまでの市の計画とどう変わったのかが、あまりわからない。それは、従来の考え方に捉われず、今後の10年をしっかりとつくっていくことが必要だと思う。会社の場合は、そこで働いている人が会社の方針を決めることや、会社の方向性を話すことはあまりしない。そうではなくて、実際にトップがどのような会社を作っていくかをしっかり決めて、それを共有するような形だと思う。ここがどうしても行政サービスを考えると、皆さんの意見を吸い上げて聞くので、こういった方針になってしまう。この点が10万人、20万人の都市の抱えている大きな問題であるし、逆に1万人や2万人ぐらいの都市は産業も「これしかない」と思っているし、住んでいる方々も「これで生きている」自覚があるので、非常にトップから下に伝わるのが早い、そのような地域の方が元気なのが、今の状況だと思う。そうした意味では、地域創生という言葉があるが、それは地域間競争の始まりであり、その中で10万人、20万人の都市が今までどおりに方針を考えていて、果たしてこの競争に勝てるのかについては懐疑的なので、市としての特色が出てくるといいのではないか。

- 基本方針1 未来を担う子どもを育てるまちづくり全体にだが、資料3の論点の中身が十数行の文章に入りすぎていて、結果、主語や述語がないなど漠然としてしまって、分かりづらいと感じる。全体に教育の事なのか子育て支援なのかよく分からない部分もある。

全体に、高齢者、子育て支援、生活困窮者の問題があまり出ていないと感じた。それから、この基本方針1で考えると、例えば2行目の多様化する子育てニーズに配慮したというのは子育て支援という事と、自ら能力可能性を最大限発揮してというつながりもよく分からない。中段の乳幼児期からの健康づくりにつなげることは強引だと感じる。また、スポーツや文化を親しむことで生涯にわたって活躍できることに引っ張っていくのも強引だと思った。教育委員会としては釧路の自然に育まれなどの記載が教育推進基本計画にあるが、素晴らしい

自然環境がある中で、子どもに関連する教育も行っていることを記載した方がいいと感じる。分野別に色々な施策が出てきて分かりやすくなると思うが、最初はもっとハートの事を書いてもらいたい。

○こんな問題があるという観点から1つ2つ述べたいと思う。雇用の部分で人手不足と言われているが、これを解消するためには労働の量の確保、いわゆる女性や高齢者の活躍の場面を作っていかなければならない。もう1つは生産性の向上という事でICTとかIOTなどを活用して生産性の向上に結び付けていくこと。それから今、中小零細企業の中では担い手不足による事業承継が非常に大きい問題となっている。それは、雇用の場面が縮小することになるので、この対策が必要。それから最近会議で問題になるのは、同一労働同一賃金の問題である。あるところでは明確に同一労働同一賃金とするために、いわゆる正規雇用者と臨時、嘱託の職員の仕事を完全に分け、時間も減らしたと聞いている。これはいずれ、ボディブローのように産業経済に響いてくる問題だと思っている。

○基本方針5 自然と都市とが調和した持続可能なまちづくりの下から4行目、コンパクトなまちづくりを進めるという記載があるが、これは具体的にどのような想定でいるのか。作業部会の「暮らす」「働く」から基本方針5が出てきたと思うが、どのような趣旨でコンパクトという言葉を使っているのか。人口が20万人だったのが16万人、14万人になりそうだと聞いていると、同心円状に広がり過ぎているまちを中心に集めてこなければ、コンパクトにならないとイメージされる。どのような趣旨でコンパクトと記載しているのか説明願いたい。

●本市が今進めているコンパクトなまちづくりを具体的に実現するために、立地適正化計画を策定している。旧来であれば、委員のご発言のとおり同心円に縮めることをコンパクトなまちづくりというイメージに捉われやすいが、本市の立地適正化計画は、生活している拠点を重視しており、市役所のような機能を持つ場所を拠点として、暮らし続けられるように医療、商業などの機能が8つの拠点に存続していくまちづくりをコンパクトなまちづくりとして進めている。

●委員の質問のように、本市は22万人の人口の時に、将来の都市規模を25万人と推計し、市街地を拡大していたが、17万5千人という

状況になった。その中でコンパクトなまちづくりの理念をしっかりと作っていくために、暮らしというキーワードで、人が歩いて暮らせるところが1つの拠点と考えて、買い物難民や医療の問題を解決するために、必要な機能を拠点としてまとめていく。今ある既存の店などを活用しながら、その拠点を市内8か所に集めていき、それらの拠点を公共交通ネットワークで結ぶ。このような方法で機能を分散してもちながら、歩いて暮らせるエリアをひとつの生活の拠点としていく。拠点化とネットワークの構築を進めるために、立地適正化計画や公共交通の再編計画などをベストに組み合わせていく。そこからスタートしているコンパクトなまちづくりである。委員ご指摘のとおり、この文章だけではわからないと感じた。

○中身に同意するかは別として、コンパクトなまちづくりという言葉が記載されている背景はわかった。

◎釧路市が進めるコンパクトなまちづくり施策、それに沿って基本構想の施策を進めていくという説明であった。これはしっかり説明しておく必要がある。委員の質問は重要であり、コンパクトなまちづくりの意義は人口が減ることで、行政サービスの機能が低下する状況では、1か所に集めることで行政サービスが効率的になるという考え方だが、これは供給側の論理でもある。一方で住んでいる人から見ると行政サービスの機能が低下しても、その場所に住んでいたい人もいる。ここは気を付けなくてはいけない点だ。ただ、釧路市の場合はあまりにも人口の将来の伸びを大きく予想し、分散した都市の形態になっている。したがって、より収束させながらコンパクト化を目指すことが、都市政策として有効であるというのが、今の釧路市の判断で、その趣旨を誤解を受けないように伝わるメッセージを出していくことが必要だ。

○基本方針1、この部分に関して事務局の方から先程の意見も踏まえてどのように考えているのか説明願いたい。

◎本日の意見を受けて、総括的に事務局でこの場で説明できることがあれば、説明願いたい。

●今回のまちづくり基本方針は、1章が産業経済、2章が福祉分野など、

分野別の構成はせずに、社会の課題を「育てる」「働く」「暮らす」という市民のライフステージにもとづいた検討にチャレンジしていることも理解いただきたい。様々な分野が入り込んでいるので視点が分かりにくいという点もあるかと思うが、従来型の総合計画のように縦割りで分野ごとに課題を記載する形式にはならない。

もう一点、具体的な記述が足りないという指摘が多かったかと思う。これについては、今後作成する分野別施策を意識して、極力大きな視点で作成したため、具体的な表現を避けたところもある。今後、市民委員会の意見を参考にしながら、たたき台を修正していきたい。

◎今回はたたき台であり、事務局は意見を受けて挑戦的に書き込んでいただきたい。

本日の意見を私なりに受け止めると、事務局には各委員の発言を議事録に起こして、釦路らしい深い思いを噛みしめて、この基本方針に書き込んでいく努力をお願いしたい。

このようなたたき台は行政担当者の立場になれば、幅広い価値観が交錯するものを1つの文章にまとめていくというのは、抽象的になりがちだが、前向きに意見を受け止めて、より具体にしていく作業の積み重ねを、今後に向けてお願いしたい。

今回の進め方で難しかったのは、まちづくり基本構想には、この後に戦略と施策がある。少なくとも戦略を抜きに基本方針の議論していくのは難しい。ある程度、戦略的な施策としての展開を示しながら基本方針を議論していく。最初の章立てから順番に議論していくのは、無理があると感じた。したがって、この後、大事な重点戦略、それに伴う施策が整理された段階で、基本方針の議論が再度見えてくる。よって、本日の意見を踏まえて基本方針の素案の作成作業を進めるが、重点戦略なり施策の中で、場合によっては変わりうるという、将来に向けて基本方針の議論は引き続き検討していくことで進めたいと考えている。

最後に、各委員から意見はどうか。

○基本方針1 未来を担う子どもを育てるについてだが、心を育てるのはもちろんのこと、生きる力をどう育てるのが重要で、体験活動を通して身に着けるのも一つの方法だと思う。それと基礎基本の部分では学力だと思う。幼児から学生までそれぞれの段階に合わせてとあるが、私が言いたいのは学力の問題であり、釦路には中高あり、専門学

校をいれると5つの高等教育機関があるが、高い学力を身に着けて、地元の高校、大学で自分の描いた将来の夢を実現するために高等教育を受ける、または受けさせるということを親が子どもを指導する際の考えとして持つことが重要だ。ここの基本方針では低学年のイメージで書かれていると感じるが、次代を担う子どもの育成であれば足りることがあると思う。

## (6) 市長の感想

市民委員会の様々なご意見を取り入れながら、目指すべきまちづくりや基本方針をしっかりと市民に伝えていくことは大事な視点であり、行政が見ているものが、どのように映るのかということも、ご意見を頂いて、改めて認識したところである。

先ほど議論があった、どのような子どもを育てたいのかという点について、私なりの言葉で述べると、釧路に生まれた子どもたちが地元で働く、北海道、東京、世界などどんなところでも活躍できる。釧路にいたことがマイナスにならない環境を作ることが子育てだとイメージしている。つまり子どもたちが幅広い選択肢をもてる環境を、このまちでつくるのが一番重要だと思っている。地元にいることも選択できるし、どこに行くことも選択できることを、先ほど事務局は両面と説明していたが、釧路で子どもの時に暮らしていたら、色々な可能性が持てることで、まちの魅力が強くなっていくと思う。

合わせて子どもだけでなく、すべての世代の人たちが、それぞれの得意分野などで活躍できるなど、基本方針は、すべての人にかかわるものであり、そして働く場所の確保として雇用、雇用にはすべての産業が関係してくる。また、自然と都市とが調和することはこの地域には重要な問題である。

この5つの基本方針をもとに、委員長からも重点戦略と結びつけて検討するという助言をいただいたので、今後検討を進めていきたい。

このまちづくり基本構想はまちづくり基本条例に基づき、市が独自につくる最初の基本構想として、今後10年間に向けてまちをどうしていくのかを掲げるものである。そういう点では、決められたルールによる総合計画ではなく、意志に基づいた基本構想になる。また、ご意見をいただきながら進めていきたい。

◎経営戦略は、まちづくり基本構想の釧路らしい重点戦略としてメリハリの出る部分である。市長のリーダーシップのもとで政策メッセージ

を示す局面でもあるので、よろしくお願ひしたい。

(7) その他

- ・ご意見シートについて事務局より説明。
- ・次回日程について事務局より説明。

**5 閉 会**